

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（11月22日（金）放送分）

FMラジオ ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ご し ま け ん り つ あ ま み と}鹿児島県立奄美図書館^{しよかん}です。

今朝は、「図書館アラカルト」と題して、「日本復帰のころの奄美の図書館」についてお話ししましょう。

去る11月9日、奄美市文化センターにおいて「奄美群島日本復帰60周年記念式典」が盛大に行われました。また、これに前後して「復帰60周年記念」各種イベントや講演会も各地で行われました。これらを通して、小・中・高校生の皆さんは、68年前、日本が太平洋戦争に敗れた後、アメリカを主とする連合軍に占領され、1946年、奄美や沖縄、小笠原諸島などが日本本土から切り離されて、アメリカ軍の統治下に入ったことを学んだと思います。

そしてすさまじい生活困窮、自由の束縛を受け続けた奄美の人々が、日本復帰協議会議長^{いずみ ほうろう} 泉 芳朗 先生を中心にして、全群島あげての署名活動、集会、断食、密航による決死の請願、全国各地における奄美出身者の支援活動など、非暴力の民族運動を展開した結果、ついに1953年12月25日、日本復帰を勝ち取ったことも学んだと思います。

また、去る11月12日は、著名な小説家であり県立図書館奄美分館の初代館長であった島尾^{しま お とし お} 敏雄 先生の命日で、第28回目の「島尾忌」が小俣町の旧分館長宿舎でしめやかにとり行われました。島尾先生は、復帰後の1955年、奥様の病氣療養のために奥様の出身地である奄美に来られ、高校の非常勤講師をされていました。そして1957年に県立図書館奄美分館の前身である奄美日米文化会館の館長に就任され、執筆活動の傍ら、図書館長として奄美の文化発展のために精力的に活動されました。今日は、日本復帰60周年と島尾忌を記念し、日本復帰前から奄美分館設立前後の図書館の歴史を振り返りたいと思います。

アメリカ軍政下の1951年当時、旧名瀬市には三つの図書館がありました。一つは、奄美博物館附属の図書館、一つはカトリック教会の図書館で1949年にできています。あと一つは、軍政府が管理していた「大島文化情報会館」図書室でした。戦前、奄美には図書館はなく、1948年に初めてできたのが博物館附属図書館でした。蔵書は約1500冊で、本を読むのに当時のお金で1日2円の閲覧料を払う必要があったそうです。群島政府の建物に間借りしていた図書館ですが、1950年、米軍政府から図書館を建設するようにと命令が出て、11月に名瀬小学校の近くに「名瀬図書館」が誕生しました。しかし、同時に進んでいた米軍政府の文化会館が1951年3月に完成したため、翌52年6月に、名瀬図書館は機能を停止され、図書館の建物と機能・備品は、文化会館に移管されたのでした。

その文化会館が「大島文化情報会館」で、翌1952年に「奄美琉^{りゅうべい}米文化会館」と改

称され、大きなホールを持つ講堂も建設されました。講堂では映画会や音楽会が開催され、会館の1階は会議室、2階に図書館があり、図書の閲覧は無料、クラシックやポピュラーなどあらゆる鑑賞用レコードが棚いっぱいにあふれていて、誰もが自由に聞くことができたそうです。そうやって米軍政府は、アメリカは自由の国なんだということを宣伝したかったのでしょうかね。

そしていよいよ日本復帰の年、1953年を迎えます。12月25日をもって文化会館の施設、備品は日本政府が引き継ぎ、勤務していた職員は、大島支庁総務課に所属することになりました。さらに翌54年の5月に鹿児島県知事とアメリカ政府との間で協定が交わされて、文化会館の施設やすべての設備・仕組みが日本側に移管されて、「奄美日米文化会館」としてスタートしました。島尾先生は、1957年12月に、その第8代館長に就任されたのでした。

翌58年の2月、県立図書館の名瀬設置の島民の願いが届き、県教育委員会から県立図書館に分館設置の意向が打診され、関係者が協議した結果、4月の県議会において「県立図書館設置条例の一部を改正する条例」が議決され、奄美日米文化会館に県立図書館奄美分館を併設することが決まったのでした。それとともに、島尾先生は、初代の県立図書館奄美分館長ともなったのです。

今年、当館で開催された「島尾敏雄企画展～分館長就任前後の日記より」で、就任当日の日記のおもしろいエピソードが残っています。「4月1日（火曜） 晴れ 気温23度
昨夜十二時頃まで起きていて、またあとでノミになやまされて熟睡できず。（中略）・・・
今日から県立図書館奄美分館となったわけだが、どこからも何らの通知もない。」と県の教育委員会からも県立図書館からも何の連絡もなく、拍子抜けされた島尾先生の気持ち伝わってきます。

奄美図書館は、設置5年目ですが、奄美分館、日米文化会館と長い歴史があることもお伝えしたくて今日の話になりました。内容の多くは、郷土史研究家であり、写真家の^{はざま}間弘志^{ひろし}さんが著した『全記録 分離期・軍政下時代の奄美復帰運動、文化運動』という本を参考にしました。日本復帰の詳細を勉強したい方は、ぜひお読みください。

さて最後に、日ごろ図書館をご利用の皆様にお知らせがあります。奄美図書館は、11月26日から12月5日まで長期休館します。これはこの期間中に、図書館にある20万冊の蔵書を点検・修理するためです。毎年この時期に行われていることとはいえ、皆様には、大変ご不便・ご迷惑をおかけしますが、よろしくご理解のほどお願いいたします。それにともない、少しでもご不便を解消するために、現在、貸出し冊数を通常の2倍にしています。つまり、1枚の図書利用者カードで一般用図書、児童用図書を各10冊ずつ、計20冊まで借りることができます。通常休館日の11月25日の前日、24日・日曜日まで、この特別貸出しができますので、どうぞご利用ください。

それでは、皆様、また来週。^{けんりつあまみとしよかん}県立奄美図書館でした。